

**テーマ：**「持続可能性（サステナビリティ）」の多様性を考える

**関連の深いコース：**各コースに共通するテーマです

### 1. このテーマを学ぶために

人間環境学部のテーマは「持続可能な社会の構築」ですが、「持続可能性（サステナビリティ）」という言葉の意味を考えたことはありますか。また、環境や社会を考えるときに「多様性」という言葉も多く聞きますね。より良い<未来>を築くために必要なキーワードとして用いられる「持続可能性（サステナビリティ）」という言葉ですが、その意味は様々で、文化の多様性に深く関わります。

「持続可能性（サステナビリティ）」と聞いて、あなたのようなイメージを思い浮かべますか。また、例えば、福島県の漁業者、鎌倉野菜の生産農家、温暖化の影響で「海に沈む」と言われている南太平洋の国ツバルの島民、JICA 海外青年協力隊員、ニューヨークのホームレス、スターバックスジャパンの CEO、マイクロソフト社のビル・ゲイツ、にとって持続可能性のイメージとはどのようなものでしょうか。往々にして異なるでしょう。それはなぜでしょう？また、そうした「差異」は、我々が「持続可能な社会の構築」を実現するために、どのような課題を投げかけるのでしょうか。

「持続可能性（サステナビリティ）」を目指す活動は日本国内だけでなく、海外にも沢山ありますが、それらの事例はそれぞれ、誰が、誰（何）のために、どこで、どのような方法で実現しようとしているのでしょうか。また、それらの活動の「成功」または「失敗」というのは誰の視点で、どのように判断されているのでしょうか。在学中に、様々な角度から「持続可能性（サステナビリティ）」を学び、卒業するまでにその意味について、自分なりの考えを述べるができるようになりましょう。それが、人間環境学部の卒業生としての自信と誇りに繋がると思います。

**環境人類学 I、II、III** を通して「持続可能性（サステナビリティ）」と文化の多様性の関係について学びながら、興味のあるテーマに沿って様々な分野の科目を履修し、フィールド調査で実践を観察しましょう。以下は興味ごとのテーマと履修科目の例です。

- A) 「持続可能な開発」や「持続可能な発展」について興味がある場合：  
途上国経済論、国際経済協力論、社会開発論、NGO 活動論、国際関係論、科学技術社会論など
- B) 「持続可能な資源利用」について興味がある場合：  
地域コモンズ論、自然環境政策論、国際環境政策、国際環境法、国際関係論、食と農の環境学、環境経営論、環境ビジネス論、エネルギー論、エネルギー政策論、科学技術社会論など
- C) 「持続可能なまちづくり」について興味がある場合：  
地方自治論、地域形成論、自治体環境政策論、地域経済論、地域コモンズ論、NPO・ボランティア論、都市デザイン論、自然災害論、防災政策論、科学技術社会論など

### 2. テーマに関連した推奨科目

環境人類学 I, II, III に加え、興味のあるテーマごとに上記の科目例を参考に理論や事例研究を学びましょう。また、フィールド調査を通して、「現場」を観察し、自分の考えを深めましょう。上記の科目以外にも、「持続可能性（サステナビリティ）」の<意味>を考えるために必要な、人文科学的思考力も磨きましょう（例えば：文化人類学 I, II、日本環境史論 I, II、環境表象論、環境倫理学 I, II など）。